



©まなびの広場 令和7年8月10日発行  
偶数月10日発行  
令和4年6月10日創刊 通算No.20

2025

# まなびの広場

— 子どもの未来を共に考える —  
VOL.20

## 編集よりご案内

本号で最終回を迎える井桁容子氏の連載では、子どもにとって「安心」「安全」と感じることの重要性、安心をもたらすことの効果を具体的な事例をまじえてご執筆いただきました。

また、前号に引き続き国立教育政策研究所幼児教育研究センター副センター長の堀越紀香氏に「幼児教育における保育実践の質評価スケール案」について、具体例を用いた項目や指標の捉え方、研修での活用方法をご紹介します。

さらに本号より、ECEQ®を実施した園の先生から実施した際の振り返り・感想、ECEQ®がもたらした変化について連載します。

## CONTENTS

### 短期連載③

『安心・安全な子ども主体の保育とは』

■ 井桁 容子氏 (乳幼児教育実践研究家・保育SoWラボ代表)

(一財)全日私幼研究機構理事長からのご報告

「不登校30万人超え」から考える学校、社会、家庭のあり方

■ 安家 周一 (一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長)

幼児教育の質と評価を考える

「幼児教育における保育実践の質評価スケール案」の紹介と活用(2)

■ 堀越 紀香氏 (国立教育政策研究所幼児教育研究センター 副センター長)

ECEQ®実施園の声～ECEQ®の旅で手にしたもの

■ 廣瀬 三枝子 (一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 ECEQ®評価チーム  
・認定こども園 香川短期大学附属幼稚園 園長)

ECEQ® Hot News Vol.3



## ～なぜ子どもにとって「安心」が大切なのか～

乳幼児教育実践研究家・保育SoWラボ代表／井桁 容子

## みんなと同じことができない訳

コロナ前のことですが、ある地方で自治体主催の保育者対象の研修会をして、帰宅した翌朝に一本の電話が入りました。知り合いの園長先生でした。「昨日の研修にうちの4歳児の担任が参加していたのですが参加した本人だけでなく、その報告を受けた主任も園長の私にとっても大きな学びなり、また、大いに反省しました。」とのことでした。園長先生が話してくださったのは、一人の4歳児のことでした。その内容は以下のようなものでした。

みんながプールを楽しみにしている中、R君だけプールの準備を始めると毎回泣き出してプールを嫌がる。あれこれ声をかけて働きかけても、2週間もそのような状態が続いたときに、担任から主任や園長に相談があった。主任や園長がR君に関わってみても状況が変わらず、保護者と話し合っても、やはり嫌がる理由が見つからず、結果的に発達障害の可能性も考えられるので児童相談所に相談に行ってみることを保護者にすすめ、保護者も同意したとのこと。2日後に両親がR君を連れて児童相談所に行くことになっていた時に、担任が研修に参加した。

担任は研修で学んだことから自分自身を振り返り、もしかしたらR君の気持ちを分かろうとする姿勢、つまり共感が足りなかったのではないかと自ら気づいた。そこで、翌日のプールの前に「R君、もしかしてプールの時に泣いていたのは、プールに入る前の消毒用のシャワーを浴びるのが嫌だったの？あれ、冷たいものね」と言ってみたら「うん！」と大きく頷いたかと思うと、さっさと水着に着替えて、一番にシャワーを浴びてプールへ向かったとのこと。そして、プールに入りながら、「先生、ありがとう！プール楽しいね！！明日も入るよ！」と満面の笑顔で話したと。

「やっぱり私の関わりが原因だった・・・」と気づかされた担任は、職員室の園長のところにやってきて、「園長先生、原因は私です！R君ではありませんでした！」と涙を流して報告してきたとのこと。

R君は、もしかするとHSC（Highly Sensitive Child）で感性が強いタイプだったのかもしれませんが。不快に感じていることや不安に思っていることを担任の先生に気づいてもらっただけで、苦手を感じていたことをあっさりと乗り越えてみせたうえに、「先生、ありがとう！」とお礼を言って明日への意欲も言葉にして表現しまし

た。このようなことは、本当によくあることです。それは、大人でも同様ではないでしょうか。自分が困っていることを理解されたという感覚は、「安心」を感じます。そして、これならば何かあっても大丈夫という「安全感」を覚えるのです。すると、本当はみんなと同じようにしたかった気持ちのほうが強くなってきて、意欲が湧き困ったことを乗り越える力になるのです。子どもは、困っているときに、何かをして欲しいというよりも分かって欲しいのです。これは、甘やかしではなく共感することでしょう。不登校の子どもに、HSCが多いというデータをどこかで目にしたことがあります。乳幼児の段階で感性の高い気質の子どもは、手のかかる困った子どもとみられがちですが、この時期に共感性を持って関わってくれる大人との出会いは人生を左右するほどの重要な意味を持つと考えます。



## 「安心」「安全」と感じることの重要さ

もう一つのエピソードから考えてみます。私が、エレベーターに乗っていた時に、3歳くらいの子どもが大泣きしながら、お母さんに丸太抱えさせながら乗ってきました。子どもは、手足をバタバタさせながら大騒ぎです。お母さんは怒り心頭の雰囲気です。「もうだめなの！」と厳しい口調で子どもに向かって言いました。それでも子どもは、大騒ぎをしてバタバタ手足を動かしています。そ

の状況から、騒ぎの理由に察しがついた私が、その子どもと目が合ったときに「プレイルームが楽しかったんだね。あそこはいろいろなものがある面白ところだものね」と言ってみました。すると、バタバタが止まり泣くことも止めて、「ママ、おろして」と冷静な口調で言いました。お母さんが不思議そうに子どもを下ろすと、お母さんと向かい合わせに立ったその子どもがお母さんを見上げながら「面白かったから、もっと遊びたかったの」と言ったのです。「あ、そう。でも今日はもうだめなの」とつれなく言いましたが、子どもはもう泣いて騒ぐことはありませんでした。

この時の子どもの「安心」は、どこにあったかと言うと、見ず知らずの大人であっても自分の気持ちを言葉にしてもらったことでしょう。そして、お母さんに自分の気持ちを言葉で伝えればいんだと解決策を自ら気づいて、安心したのだと思います。子どもたちの多くは、本当は大人の言っていることや事情を分かっているのです。でも、その前に自分の気持ちを受け止めて欲しいと願っているのです。だから、お母さんがつれない口調であっても「あ、そう」と言ってくれたことで気持ちが伝わったと感じ取まりがついたのではないかと思います。



こども家庭庁の「はじめの100か月の育ちビジョン」で示されている5つのビジョンの1つめに“こどもの権利と尊厳を守る”2つめに“「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める”とあります。このことが重要である意味が、前記したエピソードで証明されると思います。「子どもの権利」は、「自由にどうぞ」と大人が許可して与えるものではなく、本来子どもが持っていることを尊重するということです。“自分のしたいことができる”“してほしくないことは止めてと言ったらきいてもらえる”“してほしいと思っていることを言える”と子ども自身が感じていて、安心で安全だと思っている状態で過ごせることです。そうすれば、子どもたちは、勇気をもって挑戦し自信を持って困難に向かっていくからです。そのことが、「子ども主体で保育を行う」(アタッチメントが満たされる保育)の重要さです。

子どもが嫌がることには、必ず訳があります。でも、多くの大人は、「みんなできているのになぜこの子だけできないのか？」という視点で否定的なまなざしから関わりがちです。また、「尊重ばかりしていたらひ弱な人間に育ってしまうのではないか」という声も聞こえてくる可能性があります。しかし、実践を通して確信を持っていえるのは、前記したような大人に分かってもらえた時の子どもの安心感、安全感がもたらすポジティブで劇的な変化のエピソードをたくさん持っていること、先行研究を通して多くの研究者が心の安心・安全感の重要さを証明していることです。

医学的な研究<sup>(注1)</sup>でも、安心で安全だと感じた自律神経の副交感神経は、乳幼児期の温かい関わりによって増え、反対に不安な状態がそのままにされた乳幼児期を過ごした場合、ストレスに弱く、意欲が落ち、虫でよく見られる“死んだふり状態”という原始的な副交感神経が働いてしまうということです。その状態がやがて、トラウマ、PTSD、引きこもり、不登校、うつということに繋がっていくと。

そろそろ、早く教えて早くわからせ、早くできるようにしようという保育や教育は、子どもを生きにくくさせてしまうということに気づかなければなりません。

#### 参考文献

(注1)：ポリヴェーガル理論入門―心身に変革をおこす「安全」と「絆」  
ステファン・W・ポージェス著 花丘ちぐさ訳 春秋社 2018

保育施設  
導入実績 **No.1**

**IP無線機 伝シリーズ**  
— ニシハタシステム —

**災害対策**で  
**2,500**園以上が導入!



**園業務のお悩みを  
IP無線機で解決!**

無料お試し実施中!

**0120-775-956**  
株式会社 ニシハタシステム



# 「不登校30万人超え」から考える 学校、社会、家庭のあり方

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 安家 周一



義務教育学校の不登校児が30万人を超えている、という記事が新聞の一面に踊り出しています。学校に行かない、登校できない子どもが増えている原因は、様々な専門家からコメントされますが、未だ原因を見出したとは言えないかもしれませんし、その原因は一人ひとり違っているのかもしれない。

不登校は、学校の教師の高圧的な態度や友達関係が原因であるがごとく、抗議が学校に向く場合もあることでしょう。もちろん授業態度に厳しすぎて、強圧的な指導をする教師などもよく聞く話です。子どもは自分の周りで起こっている様々なことにアンテナを張り巡らせ、ある意味びくびくとその様子を観察し引きこもらざるを得ない状態に陥っている場合も多くあります。

家庭環境の影響で言うと、共働き夫婦やひとり親家庭の増加が挙げられます。小学校低学年の子どもを家に残して出掛ける親には、特に様々な葛藤があることでしょう。子どものことが気になり、なかなか仕事も手につかず、特にひとり親世帯の場合、生活が困窮し、親の立場が追い込まれることも想像に難くありません。離婚などのためにひとり親となって、母と暮らすケースの場合、家庭の中から父性が欠如する結果となり、踏ん張ったり、立ち上がったる力が湧きにくい状況に陥ることもあると言われます。日本はジェンダー意識がなかなか改善せず、父親になりきれていない家庭も多くあります。

家族心理学の研究者である柏木恵子さん（東京女子大学名誉教授）が「子どもが育つ条件」<sup>(注1)</sup>の中で、不登校や引きこもりの原因をこのように述べておられます。『親たちの関係の不和や対立が、不登校や引きこもりの原因であるケースは、決して例外ではないのです。親たちの方は、自分自身の生き方や夫婦の関係について、もう仕方がないと半ば諦めているかもしれません。しかし、子どもの方は、それを批判的にみているのです。先に見た例でも、親たち、大人の側が自らの関係を修復させようと

努力し始めたことが、子どもの心を安定させ、登校へと向かわせる契機となっていたのです。』と親子関係の中での子どもの心の動きを解説されています。

不登校の問題はもちろん文部科学省も各自治体の教育委員会や学校の教師たちも看過しているわけではないと思いますが、社会的背景に対応した施策によって子どもたちにとっては息苦しい環境で過ごすことになっています。子どもたちは乳幼児期から標準11時間、塙と門に囲われた中で生活をします。小学校に行っても、多くの子どもたちは放課後児童クラブや習い事で時間を過ごし、これまた大人の目が届く範囲に置かれます。少なくとも私たちの世代は、小学生になれば仲間と連れ立って山や川に繰り出し、楽しい遊びを創り出し、友達とカラスが鳴くまで遊び、たくさんいたずらをし、友達といっぱいケンカし、近くのおじさん（しつれい！）によく怒られました。学校は面白くないこともいっぱいあったけれど、放課後の楽しい遊びのために学校に行っているようなものでした。しなやかでタフな人との関係は、そのあたりで獲得したのだと、今になって理解できています。

現代では小学生の腕には居場所がわかるデジタル時計が光っています。親は自分の機器から我が子がどこにいるのかが即座に分かるのだそうです。一見すると安全の確保なのですが、少し乱暴な言い方をすると、大人の知らない世界で時間を過ごすことが許されない子どもたちは息が詰まるのではないのかと個人的には心配になります。

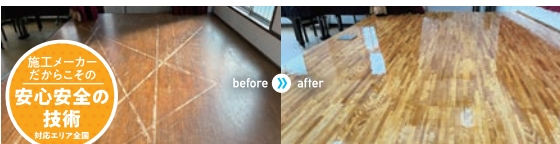
日本は先進諸国の中で犯罪発生率は特に低く、とても安全な国と言われています。大人はもっと子どもたちを信用し、自分だけの時間や空間、自分の判断で自由に行動する環境を整えなければならないのではないか、とも思います。

引用/参考文献

(注1)：「子どもが育つ条件」—家族心理学から考える 柏木恵子著 岩波新書 2008



あらゆる技術で、  
園の床に起こる  
さまざまな課題を解決!



施工メーカー  
だからこそ  
安心安全の  
技術  
対応エリア全国

安全 健康とケガ(ササクレ)のリスクに備える ※コーティング種類による  
歩きやすく転びにくいノンスリップ仕様®

負担減 清掃負担軽減 維持費負担軽減  
日々のワックスがけは時間的にも体力的にも負担がかかりますがコーティング施工  
済みの床なら職員の方の清掃やメンテナンスの負担を軽減できます。



園舎管理  
保育DX

園舎管理もプロにアウトソーシングする時代!  
園舎管理を「属人化」から「仕組み化」へ  
修繕計画のセカンドオピニオンとして活用しませんか?/

令和7年度  
積極  
受付中



株式会社エコテック

フリーダイヤル  
0120-963-093

全国対応

ecop  
株式会社エコテック

ecop  
園児の床 HP

前号（まなびの広場6月号VOL.19）より引き続き、国立教育政策研究所幼児教育研究センター副センター長の堀越紀香氏に「幼児教育における保育実践の質評価スケール案」についてご執筆いただきました。幼児教育の質とその評価について知ると共に日々の実践を見つめなおすきっかけとなれば幸いです。

# 「幼児教育における保育実践の質評価スケール案」の紹介と活用(2)

国立教育政策研究所幼児教育研究センター 副センター長／堀越 紀香

## はじめに

前回は、国立教育政策研究所の「幼児教育における保育実践の質評価スケール案（以下「質評価スケール案」と記載。）」の概要について御紹介しました。詳細は、平成29～令和4年度プロジェクト研究「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」を御覧ください。今回は、具体的な事例を取り上げながら、その内容や活用について御説明します。

本スケールは、海外の質評価スケール、ECERS-3やECERS-E、特にSSTEWの保育プロセスの質に関する項目や指標を部分的に取り入れつつ、日本の幼稚園教育要領や保育所保育指針等の内容を参考にして、日本の幼児教育・保育の文化・文脈に沿ったものです。研究目的で使用可能であることと、研修において保育実践を捉えたり振り返ったりする観点を提示し、項目をきっかけに保育実践について語り合う等して、保育実践の改善や質向上に活用できることを目指しています。

## 5歳児9-12月の事例「ツバキの種『油をとって火をつけたい』から



図1 5歳児9月 ツバキの種を石でつぶして細かくする



図2 5歳児12月 ツバキの油に火がついて「お願いしま〜す」

5歳児9月、園庭でツバキの種を見つけた数名の5歳児がいました。図鑑で調べてツバキの種と分かり、丁度テレビ番組でも取り上げられたこともあり、ツバキの種から油がとれることを知りました。油をとるためにはたくさんの種が必要と分かり、「いっぱい集めるぞ」と言って木に登ってツバキの種を揺すって落としたり、落ちている種を拾い集めたりすることを始めました。種は、石やフライパン、丸太などの道具を用いて叩いたり、押し潰したりしており、それぞれがこだわった道具を使っていました。子供たちは皮をむくことや潰すことを分担して取り組んでおり、まるで工場のような様子でした。なかなか潰れない固い種を潰すために、場所を移動して煉瓦の上で叩いて種を潰す工夫も見られました。

保育者は他の子供たちにもその活動を知らせるため、集まりの時間に紹介し、保育室内に種つぶしができるコーナーを用意しました。他の遊びや行事を行いながら、子供たちは「ツバキの油で火をつけたい」という思いをもち続けていました。

1カ月ほど種を細かく砕いて集める作業が続いた後、種を蒸して搾り、白っぽい油を集めましたが、火はつきませんでした。その失敗で「どうしてだろう？」とみんなで考えたり、大学の先生にも教えていただいたりした結果、水分が多く混ざっているためにうまく火がつかなかったと分かりました。再度園のスタッフも協力して、カセットコンロに鍋を置き、水分を飛ばして、鍋の底にうっすら残った透明の油を小瓶に集めました。

そして、12月のお帰りの集まりの時間。ツバキの油に火をつけると、ほんのりと小さな火が灯り、「わぁ！」と大喜びしました。お正月に向け、神社に奉納する絵馬に願い事を書く活動を行っていたため、子供たちの願い事をクラスで紹介していくと、みんなの願いが叶ってほしい想いからか、輪の真ん中にある火に向かって、子供たちが自然と「お願いしま〜す」と唱えながら拝む姿が見られたのです。

## 「項目Ⅳ 好奇心を育む環境構成」の指標との関連

では、前回取り上げた「項目Ⅳ 好奇心を育む環境構成」について考えてみましょう。5のレベル「5-3 掲示や展示には、子供が現在興味を持っているテーマや話題と関連しているものが示されている。（例：クラス（グループ）での話題に関する写真や保育ドキュメンテーション等、季節の野菜や木の実の実物や写真、子供が参

加した行事の写真)」です。保育室の掲示等から、現在子供たちは何に興味・関心を持っているか等が感じ取れるかどうかを確認します。

「保育ドキュメンテーション」は、「日々の遊びや活動について、写真や作品、事例、動画等を用いて、一連の流れや学びのプロセスを保育記録として集約し、展示・公開したもの」です。園や保育者によって様々な保育ドキュメンテーションがあると思いますが、図3は4カ月にわたるツバキの実践を通して作成され、日を追って写真とコメントが追加・整理され進化していきました。子供たちは保育ドキュメンテーションをよく見て活動を振り返っており、保育者が他の保育者と事例を共有するきっかけにもなっていました。また、園へ訪れた保護者にも子供の姿を紹介しながら共有していました。



図3 保育ドキュメンテーション例

7のレベルでは、「7-2 現在の活動への好奇心や意欲を高めるため、子供同士や保育者と一緒に展示された作品等を見合ったり、写真や保育ドキュメンテーション等を見たりしながら話せる場が用意されている」とあります。作品や保育ドキュメンテーションは展示・掲示するだけでなく、実際に子供同士や保育者が一緒に見ながら話す等活用していることが求められています。「7-3

現在の遊びや活動の写真や保育ドキュメンテーション等を通して、他の保育者と日常的に語り合って子供理解を深めている。★」は、インタビュー指標(★)です。保育者にインタビューし、保育者同士の語り合いや保育ドキュメンテーション等の共有について確認することが必要です。

### 質評価スケール案を活用した研修例

「質評価スケール案を活用した研修例」も一つ取り上

げましょう。手持ちの事例や報告書の研修事例を用いて、総合的に保育をみる視点を鍛える方法です。

まず、個人で質評価スケール案の各項目の指標全てに目を通した後、研修事例を読みます。関連する項目を二つほど決めて取り上げ、研修事例を読み直しながらYES/NOチェックをします。全て評定し、他の参加者と評定結果を突き合わせ、様々な見方を出し合って協議して評定を決定します。評定結果が異なる場合、なぜそう評定したかについて根拠となる事例を挙げて語り合うことが重要です。また、評定での迷い、必要と感じた追加情報、曖昧な点についても協議します。可能であれば、NOの指標について、どのように改善すれば、子供にとってより良い保育となるのか、実践へのアドバイスを具体的に考えると良いでしょう。

園内研修で質評価スケール案を使う場合は、特に関心のある一つの項目を取り上げ、3と5のレベルの指標に関連する具体的な事例を挙げ、それについて語り合うことで、項目や指標の理解が深まるのではないのでしょうか。

### 終わりに

質評価スケール案の評点を慎重に扱うことについて、改めて強調させてください。7段階の「3：まあまあ良い」は、「3」という数値のインパクトにより、その意味が正しく伝わらないことがあります。評定に至るまでの様々な背景がこぼれ落ち、保育実践の良さや改善に向けたポイント等が伝わりにくくなるように感じるのです。研修で活用する際は、具体的な事例を挙げながら、当日の実践で良かった点、課題を改善する方向性等を伝え、「明日から実践してみよう」と思えるような意見交換の場となることを目指しています。

最後になりますが、この質評価スケール案が、保育者の振り返りの一助となり、気づきを与えるものとなるよう、今後も解説案や研修方法の検討を行うとともに、幼児教育アドバイザーやミドルリーダー等を対象とした研修プログラムについても考えてまいります。

#### 引用文献

国立教育政策研究所. (2023) 「平成29-令和4年度プロジェクト研究『幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究』報告書・第2巻：幼児教育におけるプロセスの質に関する研究」

報告書QRコード



私たちは幼児教育用品を通じ、幼児教育の質の向上に貢献します。





# ECEQ<sup>®</sup>実施から1年半が経過した今 ～園の先生方へインタビュー！～

本号よりECEQ<sup>®</sup>を実施した園の先生へECEQ<sup>®</sup>を実施して良かったこと、大変だったこと、実施後に感じた変化についてご執筆いただきます。初回である本号はECEQ<sup>®</sup>を経験した園の先生方へのアンケート結果をもとに見えてきたことをご執筆いただきました。

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 ECEQ<sup>®</sup>・評価チーム  
認定こども園 香川短期大学附属幼稚園 園長／廣瀬 三枝子

今回の調査は、今後のECEQ<sup>®</sup>の普及と発展に繋がることを願い、ECEQ<sup>®</sup>の実施から1年半が経過した当園の先生10名に、質問紙と半構造化インタビューにより調査してみました。質問項目は以下の3問です。①当時はどのようなことを思って参加しましたか？②ECEQ<sup>®</sup>を実施したことは、今どう活かされていますか。③1年半が経過した今、改めてECEQ<sup>®</sup>の良さはどんなところだと言えますか？（「」は、先生の言葉）

## 1. 「ECEQ<sup>®</sup>を実施した時の気持ち」から見えてきたこと

| カテゴリ   | 回答内容例                                   | 人数<br>(経験年数)   |
|--------|-----------------------------------------|----------------|
| 不安・緊張  | 「どう進むか不安」<br>「初めてで緊張した」                 | 全員             |
| 負担感    | 「初めての不安から、気持ちの面も準備が大変だった」<br>「問い作りが難しい」 | 3<br>(6, 8, 6) |
| 前向きな期待 | 「語り合えることに期待」<br>「興味があった」                | 2<br>(7, 25)   |

香川県で初のECEQ<sup>®</sup>実施の為、経験年数に関わらず誰もが不安やプレッシャー、緊張を感じていました。副園長は、ECEQ<sup>®</sup>の良さを理解しているが、『見られる』、『評価される』というような公開保育のイメージから、職員が不安を感じているのでは？と思い、「ごめんね、でも絶対に良いものだから一緒にやってみよう」と、



STEP4 公開保育の分科会の様子

## 2. 「ECEQ<sup>®</sup>実施後に活かされていること」から見えてきたこと

| カテゴリ        | 回答内容例                                                 | 人数<br>(経験年数)       |
|-------------|-------------------------------------------------------|--------------------|
| 保育の内省・思考の深化 | 「保育を振り返る視点を深めた」<br>「目的を持って保育できるように」<br>「なぜそれをするかを考える」 | 4<br>(1, 7, 25, 6) |
| 語り合い・対話の文化  | 「職員同士で話す時間が増えた」<br>「語り合いの大切さに気づいた」<br>「互いの考えや思いを出し合う」 | 全員                 |
| 自信と意欲の向上    | 「自分の保育に自信が持てた」<br>「子どもの様子を語ることが支えになっている」              | 3<br>(6, 7, 6)     |

ECEQ<sup>®</sup>公開保育では、どの先生も「良い所を見つけてもらったこと」から「自分の保育への不安だった気持ちを自信に変えてもらった」ことをあげ、若手の先生は、「子どもの様子をどんどん語っていいんだ」、「ちょっとした時間でも話すことができるようになった」と語り合う意欲に繋げ、「普段考えているようでまだまだ視点が少なかったことを知ることができ、もっと保育がしたいと思えるようになった」と保育意識も高めていました。中堅の先生は、「話し合いの時には、ECEQ<sup>®</sup>で覚えた付箋のやり方を取り入れて、全職員で考えようという心持ちになった」こと、ベテランの先生は、「KPT法<sup>(注1)</sup>を使って保育や行事の振り返りを行うことが定着しつつある」こと、「ECEQ<sup>®</sup>コーディネーターの先生とのSTEPで培った『なんで？』『何のために？』という問いを立て、保育についてじっくり考える思考力が身に付いた」ことをあげ、ECEQ<sup>®</sup>で学んだ手法を園内研修や語り合いの場で積極的に取り入れ進めていることが分かりました。

### 3. 「ECEQ®の良さ」から見えてきたこと

| カテゴリ      | 回答内容例                           | 該当数<br>(経験年数)   |
|-----------|---------------------------------|-----------------|
| 否定しない研修文化 | 「評価ではなく気づきや学び」<br>「安心して話せる」     | 全員              |
| 自園の良さの気づき | 「園の良さに気づいた」<br>「全体の雰囲気良くなった」    | 3<br>(1, 7, 22) |
| 保育観の変化    | 「視点が変わった」<br>「語り合いから新しい保育への気づき」 | 3<br>(25, 3, 6) |

ECEQ®の特徴である「否定されない」ことはSTEPを進める上でのモチベーションになっていました。「保育を否定的に見られるのではなく、参加者と一緒に保育の質向上について考えられるところ」、「評価や反省ではなく、気づきや学びを育てていくので、みんなで保育の質を高めていける点」など、『実施園をまんなか』にして話し合うスタイルが、先生方を安心させ、保育を深めたい意欲に集中させてもらったのだと思います。新規採用の先生は「話し合いを重ねることで絆が深まった」ことをあげ、初めての保育に不安を感じる中、語り合うことで先生方と繋がり合えた嬉しさ、考え方を共有し合えた喜びが、日々の保育への前向きなエネルギーに繋がっていたことを感じます。副園長は、「できていた・できていない、ではなく、『どうしてそう感じたのか』『何が子どもにとってよかったのか』といった視点に変わってきたのが一番の変化」だと振り返っていました。園のトップリーダーとしての学びを深めていたことを感じます。

### 4. ECEQ®の実施前後で変化した3つの視点

| 視点      | Before (実施前)                           | After (実施後)                                     |
|---------|----------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 職員の気持ち  | 不安・緊張・準備の負担<br>「どう進むか不安」<br>「初めてで緊張」   | 自信の獲得・前向きな気づき<br>「やってよかった」<br>「一歩踏み出した」         |
| 保育観     | 目の前の保育に追われる感覚<br>「こなす保育」<br>「評価が心配」    | 子ども視点で保育を見直す思考が育った<br>「子ども中心に見直す」<br>「学び合う保育」   |
| チームの関係性 | 個別対応や伝達中心の連携<br>「準備が大変」<br>「巻き込むのが難しい」 | 対話・語り合いが増え、関係性が深まった<br>「語り合いが自然に」<br>「一体感が生まれた」 |

### 5. まとめ：ECEQ®の効果と課題

・1年半前のECEQ®の実施を通して、ECEQ®コーディネーターが伴走してくださったことで、若手もベテランも一緒になって語り合うことのすばらしさを感じ、語り合いの質が向上し、園の保育を深く共有し合うこと

で、保育観の変化を生み、今も尚、活かし続けられていることも分かりました。自己肯定感の向上は、日々の保育を共に考え合うチーム力を育み続けています。次のECEQ®実施時には、話し合いの質や保育観が醸成していることを期待したいです。

・ECEQ®って何？から始まる「導入への不安」や「実施への支援」といったサポート的体制を明確にすることの必要性が見えてきました。これについては、現在ECEQ®・評価チームで、実施を考えている園の皆様へ『これで安心！ECEQ®実施園マニュアル』を新たに作成しましたので、9月頃をめどに下記QRコードからでもご覧いただける予定です。

今後も、保育の質の向上と園全体の文化づくりに有効な手法であるECEQ®の輪が広がることを願っています。



STEP5 公開保育の振り返りの様子

(注1)：付箋に「これからも大切にしたいこと」「今の課題」「取り組んでいきたいこと」などを書き出し整理することで、振り返りを行う手法



# Hot News

## Vol.3

『これで安心！ECEQ®実施園マニュアル』をはじめとした、ECEQ®を知るためのアイテム、ECEQ®に関する諸規程、必要書類の様式、ECEQ®に関する研究資料を一通り掲載したページが、ホームページに登場いたします！ECEQ®に関して知りたいことがある際は是非覗いてみてください。下記QRコードより9月頃をめどにご確認いただけます。

各STEPの様子などECEQ®について詳しく知りたい方もQRコードをご確認ください。

